

# 望めない時代。

女学校には全校生で短歌を作って出す催しがあり、当時一年生だった私は「今しがたわが刈り捨てし芋づるを通りがかりの馬食(は)みてをり」という短歌が入選し、喜んだのですが当時は運搬の手段に馬車が使われ、芋づるはおかずどころか、主食の足しにするような生活になっていきました。

日増しに戦局は厳しく隣組では、もんぺをはいて防空頭巾をかぶり、防火訓練、バケツリレー、食料は配給制度になり、貰いにゆくのに列を作って並ぶ、ということになりました。

衣料は切符をもらって交換。好きな物を好きな時に好きなだけというのは望むべくもない毎日でした。お魚は丸のままなので、家で三枚におろすのも上手になりました。

この言葉が言いたい・・・  
「好きなことを好きなだけ」



ところで、子ども達は年長がリーダーとなり地域で班を組んで、これも避難訓練と称し清水小学校から旭警察まで歩いたこともあります。

(当時の新森中2丁目)



↑  
70年前の著者



城北公園

当時珍しかったバドミントンを  
母や姉妹で

## 空襲が激しく。

そのうちに空襲が激しくなり、近くの空き地に掘った防空壕に夜中であろうが大切な物を持って走り込むことも度々でした。一度あまり疲れていたのが家で寝ていたら天井裏を蛇が這うようなざーざーという音がして(焼夷弾かなにか)とても恐ろしく、生きた心地がしませんでした。

ミシンは大切な道具だったので、母と二人で運んだこともあります。

この思い出のいっぱい詰まったシンガーミシンは平成12年室内改装のため涙をのんで廃棄しました。

## 「春疾風(はやて)戦禍に耐へしミシン捨つ」 貴子

## 企業からの要請。

たけなわ  
戦争酣の昭和19年3月女学校を卒業。進学しないもの、進学しても、文系は皆、挺身隊として軍需工場に働きに出ねばなりません。私は扇町にあった大阪市立工業研究所の女子化学分析技術員養成所に入ることができ、一年間通いました。出征する男子の欠員補充に女子を採用する企業からの要請があったのです。

専門学校3年課程と、分析を主体として1年で卒業するのです。

そんな忙しい中にも教練と称し三角巾の使い方など看護関係の特訓もあり、その最中南海大地震で3階から1階へ揺れながら階段を駆け下りた記憶があります。



運河